

## 平成25年度 第3回 経営協議会 議事要録

日 時 平成26年1月20日(月) 15:00~17:00

場 所 事務局1号館2階 会議室

(構 成 員) 学長, 蟻川, 工藤, 庄山, 関, 土井, 中島, 理事・副学長(企画・人事担当), 理事・副学長(教育・国際担当), 理事・副学長(研究担当), 理事・副学長(財務・広報担当), 圓川, 横田の各委員, 副学長・事務局長

(構成員以外) 清水監事, 鈴木監事, 水本副学長, 植松副学長, 丸山副学長, 大学院理工学研究科理学系長, 大学院理工学研究科工学系長, 大学院生命理工学研究科長, 大学院総合理工学研究科長, 大学院情報理工学研究科長, 大学院社会理工学研究科長, 大学院イノベーションマネジメント研究科長, 精密工学研究所長, 応用セラミックス研究所長, 原子炉工学研究所長, 附属科学技術高等学校長, 技術部長, 関係部課長・事務長

資料

1. 平成25年度東京工業大学修正予算案について
2. 平成26年度予算編成方針について (案)
- 3-1. 平成24年度に係る業務の実績に関する評価の結果について (通知)
- 3-2. 国立大学法人・大学共同利用機関法人の改革推進状況【東工大抜粋】
- 3-3. 平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果等について
- 3-4. 国立大学法人等の平成24年度評価結果について
- 3-5. 国立大学法人・大学共同利用機関法人の平成24年度に係る業務の実績に関する評価の概要
4. ミッションの再定義 (工学分野)
- 5-1. 平成26年度運営費交付金対象事業予定額 (平成25年12月25日伝達)
- 5-2. 平成26年度文部科学関係予算(案)のポイント
6. 平成25年度補正予算案(好循環実現のための経済対策)における対象予定事業について
7. 平成25年度会計検査院実地検査に係る受検概要について
8. 大学院生命理工学研究科元教授の研究室における研究費の不正使用について
- 9-1. 東京工業大学の教育改革
- 9-2. 教育改革に関するシンポジウム

○ 平成25年度第2回経営協議会議事要録(案)の承認

○ 審議事項

1. 平成25年度修正予算案について

大谷理事・副学長から, 資料1に基づき, 本修正予算案について説明があり, 審議の結果, これを了承した。

2. 平成26年度予算編成方針について

大谷理事・副学長から, 資料2に基づき, 本編成方針案について説明があり, 審議の結果, これを了承した。

○ 報告事項

1. 平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果について

岡田理事・副学長から、資料3-1から3-5に基づき、11月6日（水）開催の国立大学法人評価委員会において、「平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果」が確定し、大学への通知及び公表がされた旨の報告があった。

## 2. 国立大学のミッションの再定義（工学分野）について

岡田理事・副学長から、資料4に基づき、「国立大学ミッションの再定義（工学分野）」について、12月18日（水）に文科省ホームページに各大学の個票が掲載・公表され、同日にプレスリリースされた旨の報告があった。

## 3. 平成26年度運営費交付金等内示概要について

大谷理事・副学長から、資料5-1及び5-2に基づき、平成26年度運営費交付金等内示概要について報告があった。

## 4. 平成25年度補正予算における対象予定事業について

大谷理事・副学長から、資料6に基づき、平成25年度補正予算案における対象予定事業について報告があった。

## 5. 平成25年度会計検査院実地検査に係る受検概要及び講評事項について

大谷理事・副学長から、資料7に基づき、11月25日（月）から27日（水）にかけて行われた会計検査院実地検査の受検概要及び講評について報告があった。

## 6. 本学元教授の研究室における研究費の不正使用と関係者の処分等について

辰巳理事・副学長及び副学長・事務局長から、資料8に基づき、1月10日（金）に公表した、大学院生命理工学研究科元教授の研究室における研究費の不正使用と関係者の処分等について報告があった。

- ・ 今後の対策として、研修システムなどの見直しが必要ではないか。
- ・ 東工大では従来から、会計制度や研究費の使用に関する研修の機会を設けているが、今後は研修の回数を増やす予定である。また、Eラーニングの導入についても検討中である。

## ○ 大学運営の諸問題について

### 1. 東工大の教育改革について

学長から、資料9-1及び9-2に基づき、本学の教育改革について説明があり、種々意見交換が行われた。

- ・ 東工大に入ってくるすべての学生がカリキュラムの100番台レベルの能力を持っていればいいが、中には100番台のレベルには達していない学生がいるのではないかと。リメディアル教育のようなものは考えているか。
- ・ 達成度を要求する以上、今まで以上に時間がかかることもあると考えている。最初のクォーターであった授業が先のクォーターでも取れるようにするとか、あるいは夏休みのところで補習を行うとか、学年の学修をきめ細かく支援する努力は必要であると考えている。

- 人数の多いクラスであればTAを付けて少しきめ細かいグループに分けて演習をするなど、授業の密度を濃くして、学生にきめ細かい指導ができるような授業方法の改善も必要ではないか。
- 教育、研究、社会貢献が大学の使命と思う。3つすべてを一人の教員が持つということも重要かもしれないが、研究に重点を置く先生方と教育に重点を置く先生方という形で分業するとか、1年生、2年生の教育に非常に力を入れるような抜本的な改革が必要ではないか。
- 新しいカリキュラム、新しい教育システムを作ると同時に、教え方、授業方法というのがものすごく重要になると思う。現在、教育改善ワーキンググループを立ち上げて検討を行っている。教育方法の改善がうまくできないと学生の力がしっかりとつかないと思うので十分に配慮してやっていきたい。

## ○ その他

### 1. 次回開催について

学長から、今回は、3月13日（木）10:00から、事務局1号館2階学長会議室で開催する旨の案内があった。

### 2. 意見交換会の開催について

学長から、引続き、17時15分（予定）から、東工大蔵前会館 手島精一記念会議室において、意見交換会を開催する旨の案内があった。

以 上